

○アカザ属の外来品について (浅井康宏) Yasuhiro ASAI: Notes on some alien Goosefoot in Japan

アカザ属 *Chenopodium* の植物は類似種が極めて多く、外来のいわゆる帰化種と称せられるものだけでも、現在、10 種以上を数えることができる。

ところで筆者は数年前から、我国に渡来している本属の植物について再検のメスを加えてきたが (植研 48(3): 70~71, 1973), 東京の大田区内などの荒蕪地で、いわゆるシロザ *Ch. album* Linnaeus (s.l.) に似て非なる一品の存在に気付いていた。本種は一見してシロザよりも葉幅が広く、葉縁に波状の浅鋸歯を有し、下部の葉はほとんど全縁に近く、まばらな花穂をつける。またシロザのように単一直立することは少なく、基部から分岐し、やや横臥する傾向を有する。これを今回、種々検討した結果、ヨーロッパ原産の *Chenopodium opulifolium* Schrader ex Koch et Ziz (1814) に該当するものと判定した。恐らく本種は最近、我国へ侵入したものではなく、かなり古くから極めて多形な *Ch. album* 系統のものに混じて存在したものであろう。なお和名は、本種の草姿と英名 Broad-leaved Goosefoot に因んで、ヒロハアカザ (新称) と呼ぶことにしたい。

因みに、いわゆる *Ch. album* と称するものを広く野外で観察すると、それ自体極めて変化に富み、多形であることに気付く。筆者の長年に亘る我国及び欧米諸国での観察結果からしても、この点、充分首肯され得ることであるが、その一方において、これら近似種との間に雑種が存在することも否定できぬ事実であり、これが更に本属植物の分類を複雑かつ困難なものにしている。

すなわちシロザとヒロハアカザとの間種と考えられるもの *Ch. × preissmannii* J. Murray <アイノコアカザ (新称)> やシロザとコアカザとの間種と思われるもの *Ch. × zahnii* J. Murry <ノハラアカザ (新称)> を見出すことが出来る。なお、これらの問題については、いずれ稿を改めて詳述する予定である。

また本属の第二次大戦後の渡来品であるやはりヨーロッパ原産の *Ch. murale* L. は、最初、静岡県帰化植物研究家としても夙に令名ある大村敏朗氏によって清水港で見出され、検定者杉本順一氏により採集地に因んでミナトアカザと名付けられたいきさつをもつが、筆者は近年、これが札幌の北大構内に完全に帰化し、シロザ、コアカザと共に群生しているのを実見した。現在まで本種は、関東以西の各地に極めて稀に見出されているが、全草濃緑色を帯び、葉縁に顕著な粗鋸歯を有する非常にハッキリした特徴ある種類であり、恐らく精査したならば、既に各地に広く生育、分布している可能性がある。各地の同学諸氏のご検討をお願いしたい (東京歯科大学)